

船舶事故調査報告書

平成26年2月13日
 運輸安全委員会（海事専門部会）議決
 委員 横山 鐵 男（部会長）
 委員 庄 司 邦 昭
 委員 根 本 美 奈

事故種類	火災
発生日時	平成25年2月22日 18時40分ごろ
発生場所	長崎県壱岐市勝本港西方沖 壱岐市所在の若宮灯台から真方位270°14.2海里付近 （概位 北緯33°52.2′ 東経129°24.2′）
事故調査の経過	平成25年8月13日、本事故の調査を担当する主管調査官（門司事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	漁船 鷺羽丸、19トン NS2-15799（漁船登録番号）、個人所有 19.00m (Lr) × 3.98m × 1.40m、FRP ディーゼル機関、610kW、昭和63年2月 第272-17736号（船舶検査済票の番号）
乗組員等に関する情報	船長 男性 59歳 一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 免許登録日 昭和49年9月30日 免許証交付日 平成20年4月10日 （平成26年3月29日まで有効）
死傷者等	なし
損傷	集魚灯用安定器（以下「安定器」という。）3台、安定器の電源線、機関室の壁等が焼損、安定器51台、集魚灯用発電機、補機駆動発電機、充電器等が消火剤の吸込みによって使用不可
事故の経過	本船は、船長ほか2人が乗り組み、勝本港西方沖の漁場に着き、主機を停止してパラシュート型シーアンカーを投入し、平成25年2月22日18時00分ごろ、主機駆動の集魚灯用発電機の運転を行い、集魚灯を点灯していか釣り漁を始めた。 操舵室左横の通路甲板にいた甲板員は、18時40分ごろ、焦げた臭いに気付き、船首甲板にいた船長及び操舵室にいた甲板員に知らせた。 操舵室にいた甲板員は、直ちに、集魚灯用発電機の電源スイッチを切り、主機を停止した。

	<p>船長は、機関室囲壁の入口引き戸を開けたところ、電線の焼ける臭いとともに、室内に煙が立ち込め、安定器が設置されている機関室前部に炎を認めた。</p> <p>船長は、持運び式消火器3本を使用して消火を行ったところ、炎が見えなくなり、19時00分ごろ鎮火したものと判断した。</p> <p>本船は、操業を中止し、21時00分ごろ勝本港へ帰った。</p>
気象・海象	<p>気象：天気 晴れ、風向 西、風力 2、視界 良好</p> <p>海象：海上 平穏</p>
その他の事項	<p>本船は、甲板下に船首方から順に魚倉、機関室、船員室が配置され、機関室囲壁の船首側に操舵室が設けられていた。</p> <p>安定器は、機関室の前部と右舷側に設けられた‘架台用の鋼製アングル’（以下「アングル」という。）に設置されていた。</p> <p>集魚灯用発電機で発生した電力は、操舵室の配電盤に送られ、配電盤から安定器の電源線を経由して安定器に供給されていた。</p> <p>安定器の電源線は、数本ずつ結束バンドによって束ねられ、機関室内を壁に沿って配線されており、本事故後、束ねられた電源線のうちの1本が、また、接続している安定器3台がそれぞれ焼損していることが確認された。</p> <p>焼損した安定器の電源線は、アングルと接触している箇所付近で特に焼損が激しく、導体が露出していたが、短絡痕は発見されなかった。</p> <p>本船は、平成24年1月ごろ船舶所有者が中古で購入し、集魚灯の点灯状況が悪い場合などに安定器を交換していたが、安定器の電源線の交換及び絶縁抵抗測定が行われたことはなかった。</p> <p>機関室ファンは、3台装備され、集魚灯用発電機を電源としており、本事故当時、2台を排気ファン及び1台を吸気ファンとして運転していた。</p> <p>機関室には、火災探知器及び自動拡散型消火器がなかった。</p>
<p>分析</p> <p>乗組員等の関与</p> <p>船体・機関等の関与</p> <p>気象・海象の関与</p> <p>判明した事項の解析</p>	<p>不明</p> <p>あり</p> <p>なし</p> <p>本船は、勝本港西方沖でいか釣り漁中、安定器の電源線から出火したことから、同電源線の絶縁被覆、安定器等に延焼したものと考えられる。</p> <p>安定器の電源線は、アングルとの接触部において、機関振動等により絶縁被覆が破損して火花が発生し、出火した可能性があると考えられる。</p>
原因	<p>本事故は、夜間、本船が、勝本港西方沖でいか釣り漁中、安定器の電源線から出火したため、同電源線の絶縁被覆、安定器等に延焼した</p>

	ことにより発生したものと考えられる。
参考	<p>安定器の電源線は、本事故後、全て太い線心のものに交換され、アングルとの接触部には摩耗を抑えるためのゴム板が装着された。</p> <p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 電線は、アングル等と接触している箇所の摩耗状況等を十分に点検すること。・ 電気機器及び電線は、定期的に絶縁抵抗測定を実施すること。